

会 告

# 一般社団法人日本形成外科学会専門医資格更新審査についての公示

2019年6月20日  
 一般社団法人 日本形成外科学会  
 理事長 清川 兼輔  
 専門医生涯教育委員会  
 委員長 上田 晃一  
 一般社団法人日本専門医機構  
 形成外科領域専門医委員会  
 代表 櫻井 裕之

日本形成外科学会は、2019年度専門医資格更新審査を日本形成外科学会専門医生涯教育制度細則に基づき、下記の要領で実施いたします。

なお、専門医資格更新のための学術研修会の各点数・単位等は日本形成外科学会専門医生涯教育制度細則、施行細則の別表に記載されております。

## 1. 専門医資格更新審査が必要な方

本年度専門医資格更新審査申請が必要な方は、a) 2015年4月1日に専門医更新を行った者、b) 2015年4月1日に専門医資格を取得した者（専門医番号の上二桁が14の者）、ほか以下のc) に該当する方です。

なお、詳細は日本形成外科学会専門医生涯教育制度細則ならびに施行細則をご確認ください。

### a) 【2015年4月1日専門医資格更新者】

細則第4章：第11条の規定による有資格者（2度目・3度目・4度目の更新対象者）・敬称略

饗場恵美子	相原 英雄	相原 正記	青木 尚子	青木 文彦	青柳 文也
青山 久	青山 亮介	赤井 秀実	赤尾 明俊	赤松 順	赤松 正
秋岡 二郎	秋月 種高	秋山 太	浅田 一仁	朝戸 裕貴	朝村 真一
東 隆一	阿部浩一郎	阿部 清秀	天野 照仁	綾部 忍	新垣 実
新城 憲	荒牧 典子	安 成烈	安藤晋一郎	安楽 邦明	飯島 三佳
飯沼 義博	井川 浩晴	伊木 秀郎	池田 弘人	池田 欣生	井砂 司
伊沢 宏和	石井 美夏	石井 義輝	石垣 剛正	石川 浩三	石川 修一
石川奈美子	石川 浩一	石倉 直敬	石黒 匡史	石郷岡規久子	石田 敏博
石原 博史	石丸さやか	泉 彰典	板谷 純幸	市田 祐之	一瀬 正治
伊藤 理	伊東 大	伊藤 正彦	伊東 優	伊藤 芳憲	犬塚 潔
伊能 和彦	井上 普文	井上 健夫	井上要二郎	今井 啓介	今井 智浩
今井 由典	今井 啓道	今里賢一郎	今西 宣晶	今村 英一	巖 文哉
岩崎 秀樹	岩崎 理恵	岩澤 幹直	岩城 啓修	岩波 正陽	岩平 佳子
于 あかね	宇井 啓人	宇井 謙二	上田 和毅	上田 晃一	上田 吉生
植村富美子	宇佐美泰徳	牛尾 茂子	白田 俊和	宇田 宏一	宇田川晃一
内田源太郎	内田 満	内沼 栄樹	有働 幸弘	梅田 整	梅田 直人
漆館 聡志	江頭 通弘	江藤 久志	榎 栄治	江野尻竜樹	蛭沢 克己

蛭原 啓文	扇 博之	大芦 孝平	大岩 彰	大浦 紀彦	大江 惠
大久保文雄	大崎 政海	大澤 榮作	大島 秀男	大島 淑夫	大慈弥裕之
大城 貴史	大城 俊夫	太田 勝哉	太田 洋美	大竹 尚之	大谷 和雄
大谷 一弘	大塚 壽	大塚 守正	大槻 眞澄	大西 清	大西 智子
大宮 由香	大村 勇二	大森喜太郎	大守 誠	大谷津恭之	岡 一郎
岡 潔	岡 敏行	岡 博昭	岡崎 睦	緒方 茂寛	岡田 忠彦
緒方 寿夫	岡田真衣子	岡部 勝行	岡村 俊哉	小川 晴生	小川 豊
置塩 良政	荻野 浩希	奥田 貴久	奥田 良三	奥村 千香	小倉 猛
小椋 哲実	小住 和徳	鬼塚 卓弥	小野 一郎	小野 陽子	小山 明彦
香川 久香	鍵本 慶子	影山 広美	梶 彰吾	梶 ひろみ	梶川 明義
加治佐卓也	柏 克彦	柏 尚裕	柏木 圭介	片岡 和哉	片桐 順和
勝又 肇	加藤 至	加藤 武男	加藤 剛志	加藤 敏次	嘉鳥 信忠
門脇 哲郎	金澤 成行	金澤 浩之	金原 憲治	金山 岳夫	金子 剛
金子 裕一	上地 貴	上林 淑人	神谷 則昭	亀井 康二	亀山 誠
加茂 理英	河合 佳子	川上 重彦	川北 育子	川崎 裕史	川島 栄吉
川嶋 邦裕	河田 牧男	川手 浩史	川那部岳志	河野 克之	河村 進
川本 潔	河原崎彩子	神沢 敏	神田 郁乃	菊地 憲明	菊池 雄二
貴志 和生	岸 陽子	喜多 孝志	北澤 健	北野 幸恵	北原 正樹
北村 孝	木塚雄一郎	橘田絵里香	木下 浩二	木下 淳	木下 行洋
木股 敬裕	木村 正	木村 中	木村 得尚	久徳 美樹	行徳 博英
清川 兼輔	許田 和義	吉良 舞	桐生 迪介	権 成基	楠本 健司
國重 義文	久保 和之	久保田潤一郎	熊谷 憲夫	倉富 英治	栗田 昌和
栗原 邦弘	栗原 卓也	畔 熱行	黒川 憲史	黒川 正人	黒木 知明
黒住 望	黒田 正義	郡司 裕則	毛山 章	小泉 拓也	古泉 佳男
光嶋 勲	河野 稔彦	古賀 雄二	黄金井康巳	國分 一郎	小暮 知子
心石 隆敏	小坂 正明	小坂 義樹	小島 正裕	小蘭喜久夫	小平 聡
後藤 昌子	後藤まゆき	此枝 央人	小林 一夫	小林誠一郎	小林 貴
小林 正弘	小林 よう	小南ちひろ	小宮 貴子	小宗 弘幸	米谷あずみ
小屋 和子	近藤奈穂子	近藤 方彰	権東 容秀	今野 宗昭	最所 裕司
斎藤 篤志	齊藤 計太	斉藤 浩	齋藤 昌美	佐伯 典道	佐伯 英明
坂井 重信	酒井 成身	酒井 直彦	酒井 倫明	坂井 靖夫	坂口 修平
阪口 昌子	崎戸 徹	佐久間英夫	櫻井 淳	櫻井 伴子	桜井 信彰
櫻庭 実	佐々木伊津美	佐々木 薫	佐々木 克己	佐々木 晴恵	佐々木富美子
笹原資太郎	笹本 良信	佐次田保徳	佐藤 明男	佐藤 薫	佐藤 和夫
佐藤 克二郎	佐藤 兼重	佐藤 佳世	佐藤 誠	佐藤 真嘉武	佐藤 実啓
佐藤 隆悟	佐野新一郎	佐野 徹	澤田 正樹	澤村 幸伸	塩沢 茂
塩谷 信幸	志賀潤一郎	茂木 定之	重原 岳雄	設楽 幸子	四宮 梓
柴田 実	洪谷 博美	島倉 康人	島中 弘輔	島本 知大	清水 理志
清水 サラ	清水 隆司	清水 祐紀	庄野 佳孝	白石 千鶴	白壁 武
白壁 征夫	白崎 祥晃	白土 基次	新富 芳尚	神野 耕作	新橋 弘之
新濱 明彦	神保 好夫	新家佳代子	末武 茂樹	末延 敦樹	菅野 由希子
菅又 章	菅谷 文彦	相谷 正子	杉野 宏子	杉山 晴恵	須澤 偉彦
鈴木 茂彦	鈴木 収二	鈴木 敏彦	鈴木 肇	鈴木 徳芳	鈴木 順輔
鈴木 康俊	鈴木 良典	鈴木 芳郎	須田 徹也	角谷 善弘	関口 佳代
添田 周吾	袖井 文二	曾根 清昭	征矢野進一	素輪	醍醐

高木 誠司	高木 正	高須 克弥	高田 章好	高田 温行	高田 裕子
高戸 毅	高成 啓介	高野 邦雄	高野 淳治	高野 敏郎	高橋 猛
高橋 信行	高橋 元	高橋 博和	高橋 誠	高橋美有生	高松 亜子
高見 昌司	高見 佳宏	高柳 進	高山 正三	滝 建志	滝 正
竹市 夢二	竹下由美子	武田 啓	武田 昇	竹本 剛司	太宰 聖志
田崎 幸博	多田 英之	龍見 良隆	田中 文	田中 一郎	田中 和行人
田中 克己	田中 伸二	田中 真輔	田中 直樹	田中 均	田中 義人
田中 里佳	棚平 晃	田辺 敦子	谷 祐子	谷口 靖	谷田 泰男
谷野隆三郎	谷平 茂	田原 真也	玉井 求宜	田牧 聡志	田村 明美
丹代 功	千明 美保	千葉 容子	陳 建穎	塚越 純二	月野 曉彦
辻口幸之助	津田 邦義	堤田 新	鶴切 一三	鶴田 當山	出口 正巳
手塚 敬	戸佐 真弓	寺内 康晴	戸田 千綾	戸田 永井	留守 祥子
徳力 俊博	鳥居 修平	戸島 勝行	内藤 素子	中川 永瀬	長江 浩朗
友成 光一	長尾 龍夫	中岡 啓喜	中島 弓子	中野 憲一	中田 信昭
仲沢 弘明	中島 秀樹	長島 史明	中野 憲一	中村 雄幸	中野 峰生
中塚 貴志	中西 将吾	中西 雄二	中村 智子	西海 剛三	並木 保憲
中野 基	西堀 公治	西井 貴美子	西村 剛三	野田 宏子	西野 隆志
奈良崎保男	野瀬 京子	野瀬 謙介	野田 紘史	野村 信子	野平久仁彦
西平 智和	野村 智史	野村 二郎	野村 紘史	橋本 裕史	芳賀 盛隆
野崎 幹弘	野村 慶人	橋本 二郎	野村 信子	花垣 博史	長谷川 隆美
野町 健	橋爪 泰男	服部 孝臣	波床 光男	林 宏司	華山 大海
橋川 和信	長谷多美子	濱中 寛子	早川 洋司	原口 彰	林 道義
長谷川時生	林 菜穂子	原 陽一郎	原口 彰	伴 政雄	原島 要人
浜口 雅光	原 順子	春成 伸之	伴 政雄	彦坂 隆	東山 卓篤
林 利彦	波利井清紀	樋口 通也	彦坂 隆	平井 平本	平瀬 雄一
林 祐司	樋口 比古	平林 慎一	平井 平本	福嶋 佳純	夫 一龍
原田 和朋	百束 明喜	福士 信哉	福嶋 佳純	藤井 芳郎	福積 昌和
東山 玲子	深野 秀一	藤井 俊一郎	藤井 忠義	藤田 浩	藤川 久輝
樋上 敦	藤井 暁	藤田 研也	藤田 忠義	藤原 雅雄	藤原 一人
平田 晶子	藤田 浄秀	藤山 忠昭	藤原 雅雄	登隆 互	舟山 聖司
深江 英一	藤田 健志	藤原 文隆	古山 登隆	互 朋仁	芳原 優子
福屋 安彦	古川 雅司	古田 恭子	古山 登隆	朋仁 佳子	本間 裕子
藤澤 靖	古川 光聡	星野 隆司	細川 多	厚雄 伸二	増井 潔
藤森 貴史	星 耕一	本田 久美	本多 政田	和也 吉郎	松井 伯健
藤原 晴海	本田 求	増田 竜児	松井 厚雄	松田 和也	松岡 健
古川 善昭	前田 俊明	松尾 琴美	松尾 和也	松田 吉郎	松本 大輔
保阪 善昭	益田 清	松田 林	松本 眞鍋	丸山 成一	丸山 成一
本庄 健志	松島 貴志	松林 眞鍋	丸山 成一		
前田 源造	松永 芳章				
増沢 あおい	松間 尚美				
松尾 博明					
松下 崇弘					
松谷 文昭					
松本 文昭					

丸山百合子	三上 太郎	三嶋 修	水上健之亮	水谷 次郎	水野 清行
水野 寿子	水野 博司	三川 信之	皆川 浩	皆川 知広	湊 祐廣
峯岸 祐之	身原 弘哉	三宅伊豫子	三宅 省吾	三宅ヨシカズ	宮坂 宗男
宮里 修	宮下 協二	宮下 哲	宮島 哲	宮田 剛治	宮田 成章
宮田弥千代	宮永 亨	宮本 博子	宮本 洋	宮本 義洋	三好 研造
迎 伸彦	向田 雅司	村尾 尚規	村岡 道德	村上富美子	村上 隆一
村澤 章子	村下 一晃	村田八千穂	室 孝明	望月 靖史	望月 祐一
樅山 真紀	百澤 明	森 文子	森 成一郎	森 浩	森口 隆彦
森下 剛	守屋 修二	薬丸 洋秋	矢澤 真樹	安井 浩司	安田 浩
安田 勝	安田 幸雄	安富 義哲	矢高 森人	矢永 博子	柳澤 明宏
柳橋 亘	矢野 健二	矢野 浩規	山内 俊彦	山口 博	山崎 民雅
山路 佳久	山下 明子	山下 眞彦	山城 薫	山田 潔	山田 孝一
山田 信幸	山野 雅弘	山本 純	山本 博	山本 博	山本真寿美
山本眞由美	山本 康	山元 康德	山本 有平	山本 慶輝	山本 喜英
山脇 聖子	山脇 吉朗	弓削 俊彦	横井 克憲	横尾 和久	横山統一郎
吉方 りえ	吉川 厚重	吉川 哲哉	吉澤 直樹	芳田 辰也	吉田 哲憲
吉田 豊一	吉田 太	吉次 興茲	吉永裕一郎	吉牟田浩一郎	吉村浩太郎
吉村 陽子	吉本 信也	依田 拓之	米田 敬	米原 啓之	寄藤 和彦
李 陽成	力久 直昭	若見 暁樹	脇坂 長興	脇田 進一	早稲田豊美
和田 秀敏	和田 仁孝	渡辺 克益	渡部 功一	渡部 慎司	渡辺 頼勝

b) 【2015年4月1日専門医資格取得者】

細則第4章：第11条の規定による有資格者（1度目の更新対象者）・敬称略

赤澤 俊文	浅井 晶子	朝本 有紀	阿藤 晃一	石川 耕資	伊谷 善仁
伊藤 秀憲	岩本 承豪	岩本 昌熙	植木 翔也	上野 佐知	上原 理恵
上山 業穂	内田 悠記	江藤 綾乃	江花 梨沙	大川 勝正	太田 真澄
岡 愛子	緒方亜希子	岡田 ゆき	小田祐美子	小野 真平	小野 昌史
加賀谷 優	桂 良輔	加藤 達也	金本 侑子	加持 秀明	北辻 まき
金 大志	木村 勇亮	金城 紅子	倉元有木子	栗原 健	黒沢 是之
木暮 倫久	権藤 理絵	齋藤百合子	坂上 陽彦	阪野 一世	作井 智子
佐藤 大介	佐藤 千草	重吉 直哉	渋谷陽一郎	清水 和輝	須貝明日香
杉本 香	須田 俊一	陶山 淑子	関 征央	瀬崎 伸一	谷口佳代子
田場 史子	塚本 歩	寺部 雄太	戸田 直歩	中尾阿沙子	中尾 沙良
中尾 崇	長岡麻理子	中島聖李奈	中島 順子	永田亜矢子	中林 洋平
中村 英子	西尾 祐美	橋本 隆宏	波田野智架	林 奈津子	原田 慶美
春名奈津紀	平井林太郎	廣田 友香	深谷 絵里	福井 剛志	福田 康裕
本間 勉	前川 絵美	松井 千裕	松下 友樹	松島 星夏	松本 健吾
三沢 尚弘	水谷 健人	南澤十規子	美原 留奈	武藤 真由	森田 耕輔
森山 和の	森脇 綾	安形 省吾	安田 路規	柳澤 正之	山崎 俊
吉原 正宣	立 雅恵	渡邊 真泉			

c) 2017年・2018年度の資格更新審査において不合格となった者、資格更新の留保未承認者となった者、専門医資格更新申請未提出者および留保期間が切れた者

## 2. 専門医資格更新申請の方法

下記の2つの更新方法のいずれかを選択してください。

I. 2019年度機構認定専門医更新（Ⅵ頁～）

II. 2019年度日本形成外科学会専門医更新（Ⅹ頁～）

専門医更新について、現在学会が審査・登録を行っておりますが、今後、基本診療科においては日本専門医機構が審査・登録を行うこととなります。日本専門医機構による専門医としての更新は2015年度から開始し、当初の5年間は移行措置が設けられています。日本専門医機構が定める更新基準の完全な運用は、2015年度からの5年間の準備期間を経て、2020年度からとなります。つまり、2019年度までは従来の日本形成外科学会専門医更新と並行して審査を行いますので、いずれかの更新方法を選択して申請を行ってください。なお、2020年度以後は「学会専門医」としての更新を行うことはできなくなります。

2023年3月31日までに新研修制度において形成外科領域指導医を取得する必要がある方は、機構認定専門医の更新申請を必ず選択してください。形成外科領域指導医取得を希望する方で本年度において学会専門医更新点数は満たしているが、機構認定専門医更新の取得単位が不足している場合については、翌年度（2020年度）にのみ必要な5年分の単位（50単位）で機構認定専門医の更新申請を行うことができます。

## I. 2019年度機構認定専門医更新を希望する場合

学会認定による専門医（以下学会専門医）は学会出席による更新が主でしたが、日本専門医機構認定による専門医（以下機構認定専門医）は講習受講による更新が主となります。講習受講（専門医共通講習、形成外科領域講習）、学術業績によって単位を取得する必要があります。また、点数（5年間で150点）から単位（5年間で50単位）へと変更されます。その他、機構認定専門医更新に必要なものは、勤務実態の自己申告書と診療実績記録、診療実績証明（症例一覧）の提出です。

### ■必要単位・点数

2015年1月～2019年12月の5年間のうち学会専門医更新に必要な1年分30点（学会更新分の1/5）に準じる条件と、新更新基準として2015年4月以降に獲得した4年分40単位（診療実績80症例）、講習受講、学術業績を合わせた単位を4/5程度）を満たせば、機構認定専門医の審査を受けることができます。もしくは、「完全移行後の機構認定専門医更新基準」である50単位を満たせば、機構認定専門医の審査を受けることができます。なお、下記単位数は2017年度4月の総会で単位数の変更が承認されましたので、ご確認ください。

項目	完全移行後の 機構認定専門医更新基準	更新時期において必要となる 新更新基準部分の取得単位
	取得単位	2019年度（2020年1月）
i) 診療実績の証明	100 症例 10 単位	80 症例 8 単位
ii) 専門医共通講習	最小 3 単位 最大 10 単位 (うち必修講習 3 単位以上)	最小 3 単位 最大 8 単位 (必修講習 2 単位以上)
iii) 形成外科領域講習	最小 15 単位 最大 31 単位	最小 12 単位 最大 23 単位
iv) 学術業績および診療以外の活動業績	最小 6 単位 最大 15 単位 (学術集会参加実績は 6 単位まで)	最小 6 単位 最大 12 単位 (学術集会参加実績は 6 単位まで)
新基準合計単位数	50 単位	40 単位
旧基準による獲得点数		30 点

### ■更新基準および提出書類

#### ①勤務実態の自己申告（必須）

勤務実態を証明する「自己申告書」として提出してください。勤務形態については、直近1年間の実態を記載してください。申告が実態と一致しているか否かについて勤務実態を検証することがあります。

#### ②診療実績の証明（必須）

5年間の診療実績の報告として、**形成外科診療実績記録**を提出してください。また、その間に経験した症例の中から以下のAとB合わせて**80症例**を記載して提出してください。AのみあるいはBのみでも可とします。

##### A. 形成外科領域の手術実績により診療実績を示す場合

形成外科領域において、5年間に術者あるいは指導者として執刀した症例を**手術症例一覧表**に記載して提出してください。

B. 症例一覧の提示により診療実績を示す場合

5年間に診療した症例について、**症例一覧表**に、診療日時、病名、治療法、転帰、診療施設名、責任者氏名（印）を記載して提出してください。

上記の各項目については、下記の③のi)の更新単位として算定します。

③更新単位 40単位（必須）

形成外科機構認定専門医資格更新に必要な単位の算定は上記に示したi)～iv)の4項目の合計で行い、これを資格更新のための基準とします。

i) 診療実績の証明 (8単位)

②の診療実績の証明で提出されたものをそのまま8単位(10症例/単位)として算定します。すなわち80症例の記録提出を8単位と算定します。**単位集計表**に記載してください。

ii) 専門医共通講習 (最小3単位, 最大8単位: 必修講習2単位以上)

形成外科機構認定専門医のみでなく、すべての基本機構認定専門医が共通して受講する項目です。専門研修施設群のいずれかの施設が開催するもの(2018年3月31日までの開催分に限る)、または各領域で正式に認められた講習会(例:各領域の学会や地方会における講習会、地域の医師会が主催する講習会など)とします。形成外科領域では、他の基本領域で正式に認められた専門医共通講習も単位として算定することが可能です(例:皮膚科学会認定の専門医共通講習など)。1回の講習は1時間以上とし、1時間の講習受講をもって1単位と算定します。E-learningについても、受講を証明できるならば単位として認めることができます。また講習会講師を担当した場合は担当した講習について2単位を付与します。

なお、営利団体が主催・共催・後援するセミナー等は原則としてこれに含めないことにします。

専門医共通講習の受講実績記録に講習名や項目名などの必要事項を記入し、日本形成外科学会で認定している専門医共通講習については、**専門医共通講習受講証明書貼付台紙**に受講証明書(受講者控え)を貼付し、コピーしたものを提出してください。

これらの単位については、必須取得単位や項目別の最大単位をよく確認のうえ、単位数が1となるようにに勘案して前述の**単位集計表**にも記載してください。

以下に専門医共通講習に該当するものを示します。

- ・医療安全(必修項目:5年間に1単位以上)
  - ・感染対策(必修項目:5年間に1単位以上)
  - ・医療倫理(必修項目:5年間に1単位以上) ※臨床倫理, 研究倫理, 生命倫理を含む
  - ・医療制度と法律
  - ・地域医療
  - ・医療福祉制度
  - ・医療経済(保険医療に関するものを含む)
  - ・臨床研究/臨床試験講習会
  - ・両立支援(治療と仕事)
  - ・その他(指導医講習については2018年より「形成外科領域講習」に含むことになりました。ただし2017年度以前に行った指導医講習会は共通講習として認められます)
- 専門医共通講習の中の必修項目のいずれか2つが含まれていることが必須です。専門医共通講習は施設で行われている講習会でも直近5年以内の受講証明ができれば算定可能です。

1) 日本形成外科学会が承認する専門医共通講習

専門医共通講習は現在、日本形成外科学会またはサブスペシャリティ学会が開催する講習は、日本形成外科学会がそれを審査・認定しています。

2) 他団体が主催する専門医共通講習

医師会等が主催する講習会や他の領域が主催する講習を受講しても、専門医共通講習については単位を算定できます。

a) 日本医師会

原則として、都道府県医師会が主催する講習会は日本医師会で審査・認定し、地域医師会などが開催する講習会の取り扱いは、日本医師会が発出する実施要綱に従ってください。

b) その他

2018年4月より、下記団体の講習も専門医共通講習として承認されました。詳細はそれぞれの団体にご確認ください。

- ・日本医療機能評価機構（地域フォーラム，全体フォーラム）：医療安全講習
- ・臨床試験医師養成協議会：医療倫理講習

3) 施設で開催された専門医共通講習

2018年3月31日までは、日本形成外科学会の専門研修施設群、認定施設・教育関連施設で行われた講習についてはその単位を認めます。E-learningについても、受講を証明できるならば単位として認められます。なお、営利団体が主催または共催するセミナーは原則としてこれに含めないことになっています（ただし、学会で審査し、機構によって認められたものはこの限りではありません）。

2018年4月1日からは、**基幹施設ならびに連携施設が開催するもの**については、原則として日本専門医機構で審査・認定を行います（2018年3月31日までは連携候補施設、地域医療施設も含めた専門研修施設群全ての施設、認定施設・教育関連施設を含みましたが、機構審査では基幹施設および連携施設のみとなりました）。

iii) 診療領域別講習（最小12単位，最大23単位）

日本形成外科学会が定める講習会等で取得する単位です。専門医が最新の知識や技能を身につけるために必要な講習等への参加を目的としています。これらの講習会は日本形成外科学会総会・学術集会，基礎学術集会，各地区の形成外科学会学術集会，形成外科のサブスペシャリティ学会等において開催され，受講者は受講証明書（提出用）を受講時に提出し，受講証明書（受講者控え）を保存しておく必要があります。形成外科領域講習の**受講実績記録**に講習名や項目名などの必要事項を記入し，**形成外科領域講習受講証明書貼付台紙**に受講証明書（受講者控え）を貼付し，コピーしたものを提出してください。

ii) の専門医共通講習と同様，1回の講習は1時間以上とし，1時間の講習受講をもって1単位と算定します。E-learningについても，受講を証明できるならば単位として認めることができます。また講習会講師を担当した場合は担当した講習について2単位を付与します。営利団体が主催するセミナー等は原則としてこれに含めないことにしますが，共催のセミナーについては，開催に先立って日本形成外科学会専門医生涯教育委員会で審議し，機構によって承認されたものについては算定できるものとします。

2017年度より，学会が受講として適切であると認定した場合は，ワークショップやシンポジウムなどの聴講も単位に含めることができます。この場合の認定単位は1時間以上2時間未満には1単位，2時間以上のものには2単位を付与します。



iv) 学術業績および診療以外の活動実績 (最小6単位, 最大12単位)

算定可能な単位については、資格更新のための学術業績基準一覧表で確認してください。ただし、学術集会(地方会を含む)への参加実績は最大6単位までの算定です。

日本形成外科学会総会・学術集会, 基礎学術集会	3単位
各地区の形成外科学会学術集会,	
形成外科のサブスペシャルティ学会, 国際学会等として認定された学会	2単位
その他形成外科学会に認定された学会および研究会	1単位

**形成外科領域学術業績等記録**に必要事項を記入し、**形成外科領域学術業績等証明書貼付台紙**にそれぞれの参加証明書を貼付し、コピーしたものを提出してください。

また、単位一覧表に記載された学会等における筆頭演者および第一共同演者としての学術発表、司会・座長についても1単位が付与されます。学会抄録集の表紙および該当ページの写しを添えて提出してください。

形成外科領域に関する査読を受けた学術論文について、筆頭著者は2単位、共著者は1単位が付与されます。対象となる学術誌は定期刊行され、日本形成外科学会の認定を受けているものに限り、論文の写しまたは別刷を添えて提出してください。

上記の学会出席、学会発表、学術論文に関して、同一の業績について旧基準点数と新基準単位数の両方に重複して算定することはできません。

(例：第60回日本形成外科学会総会の出席実績を旧基準点数15点分として算定し、新基準3単位として重複して算定することはできない)

このほかに、日本形成外科学会の認定を受けている学術雑誌の査読を行った場合には1論文につき1単位を付与します。査読の依頼状と査読結果の写しを添えて提出してください。

また、専門医試験問題作成、試験委員・監督など専門医試験に関する業務に携わった場合、1年度につき1単位を付与します。委員としての委嘱状のコピーを提出してください。

学会推薦による日本医療安全調査機構の医療事故調査制度における外部委員として活動を行った場合、1年度につき下記単位を付与します。

- ①委員長として報告書作成 3単位
- ②委員として調査委員会へ参加 2単位
- ③報告書査読等, 調査へ協力 1単位

上記活動については、日本医療安全調査機構より認定証が発行されますので、それを証明書といたします。コピーをご提出ください。

下記の団体に勤務している場合、診療実績および学術業績・診療以外の活動実績において、その団体での業務が業績として認められる場合があります。個別に委員会に申請してください。

- 1) 医薬品医療機器総合機構 (PMDA)
- 2) 日本医療研究開発機構 (AMED)
- 3) 厚生労働省地方厚生局 指導医療官
- 4) 厚生労働省医系技官
- 5) 国立感染症研究所
- 6) 外務省医務官

これらの単位については、他の項目の最大単位もよく確認のうえ、必要最低単位数を満たしながら総単位数が40となるように勘案して前述の**単位集計表**にも記載してください。

④旧基準による獲得点数 30点 (必須)

その他学会専門医基準による点数が30点分必要です。算出方法は後述Ⅱを確認してください。

## II. 学会専門医を希望する場合

2015年1月1日～2019年12月31日の5年間の学会出席，学会発表，論文などを下記細則第14条，第15条，第16条に従って申請してください。

5年間に出席・論文等を含めて150点をクリアしていればよく，すべての点数の申告は必要ありません。また，規定により，5年間に3回以上の日本形成外科学会学術集会または基礎学術集会への参加が必要です。

### ■日本形成外科学会専門医生涯教育制度 細則（2013年3月制定時版）

第14条（提出書類） 資格更新を行う者は更新申請書を事務局に請求し，必要事項を記入の上，所定の期日までに所定の実績記録とともに審査更新料を添えて委員会に提出する。満65歳以上の専門医は審査更新料の一部が減免される。

第15条（学会などへの参加の確認） 学会，研修会への参加点数については，参加証明あるいは受講票などを各自保存し，所定の申請書に添付する。

第16条（論文） 専門誌への論文掲載に関しては，所定の事項を記載して申告する。論文の点数は各人が申請する点数の1/2までとする。

### ■更新基準および提出書類

- ①日本形成外科学会専門医資格更新申請書
- ②手引き添付の書式に準じた当該年間の実績記録（書式見本をご参照ください）
- ③学術集会（関連学会，研修会等）出席の**本人が確認できる**参加章または出席証明書，学会発表はプログラムの表紙と該当ページのコピー（表紙がない場合は日付，学会名を必ず明記すること），論文は別刷の表紙のコピーおよび関係部分を添付してください。
- ④2015年1月～2019年12月までの年間診療実績記録

### 3. 昨年度（2019年1月）に学会専門医更新を申請し，2019年4月からの専門医更新をしている方で，本年度に専門医機構更新を希望する場合

2019年度の機構更新を希望する場合と同様の書類提出が必要になります。

項目	完全移行後の 機構認定専門医更新基準	更新時期において必要となる 新更新基準部分の取得単位
	取得単位	2019年度（2020年1月）
i) 診療実績の証明	100 症例 10 単位	80 症例 8 単位
ii) 専門医共通講習	最小 3 単位 最大 10 単位 (うち必修講習 3 単位以上)	最小 3 単位 最大 8 単位 (必修講習 2 単位以上)
iii) 形成外科領域講習	最小 15 単位 最大 31 単位	最小 12 単位 最大 23 単位
iv) 学術業績および診療以外の活動業績	最小 6 単位 最大 15 単位 (学術集会参加実績は 6 単位まで)	最小 6 単位 最大 12 単位 (学術集会参加実績は 6 単位まで)
新基準合計単位数	50 単位	40 単位

詳細については，VI頁のI. 2019年度機構認定専門医更新を希望する場合をご一読ください。

昨年度（2019年1月）に学会の専門医更新を申請し、2019年4月からの専門医更新をしている方で、本年度に専門医機構更新を希望する場合には、更新審査料は10,000円（登録料含む）になります。更新審査料10,000円を郵便振替口座へ振り込んでください。（「8. 申請手続き方法」に基づき手引きおよび郵便振替用紙をご請求ください）

また、審査料を納入したことが分かる証明書のコピーを同封してください。（振り込みの際は郵便局に備付けの払込取扱票をご利用ください）

4. 特別な理由（海外への留学や勤務、病気療養、妊娠、出産、育児、介護、管理職、災害被災など）のために専門医の更新ができない場合の対応

学会専門医の留保を申請してください。

海外留学、病気、出産、育児、その他委員会が妥当と認める理由があれば、その間その個人につき本制度の適応は留保されます。なお、出産育児に関しては、留保期限は原則1年間とします。留保期間中の専門医資格は有するものとします。なお、「留保審査料」として10,000円をお振り込みください。

例：2016年1月1日～2016年12月31日病気療養  
2019年

2015年	2016年 【療養】	2017年	2018年	2019年 11月申請書類 到着	
-------	---------------	-------	-------	------------------------	--

書類提出期間までに【留保申請書】を提出し、専門医更新審査会にて承認

2020年

2015年	2016年 【療養】	2017年	2018年	2019年	2020年 11月申請書類 到着
-------	---------------	-------	-------	-------	------------------------

1年間の留保申請が承認されているので、【留保申請期間】を除いた5年間の必要単位数、点数などを細則に従って申請する。

5. 上記4. 以外の理由により規定更新単位数を満たせなかった場合

5年間で必要な単位を獲得し得ない方は専門医資格を停止しますが、続く2年で所定の単位を獲得すれば更新が可能です。なお、停止期間中は更新の資格は保有しますが、専門医資格は停止となります（専門医と標榜できない）。

その場合の提出方法は下記の通りです。

2019年更新者

2015年	2016年	2017年	2018年	2019年 11月申請書類 到着	
-------	-------	-------	-------	------------------------	--

↓ 書類提出期間までに書類を提出 → 未提出 → 2020年4月1日より専門医資格停止  
翌2019年

2015年 無効	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年 11月申請書類 到着
-------------	-------	-------	-------	-------	------------------------

直近の5年間の生涯教育基準点数を提出する必要があるため、2015年分の点数は無効になります。

## 6. 連続して3回以上の更新を経た専門医への対応（機構専門医のみ）

連続して3回以上の更新を経た専門医は診療実績の証明を更新要件から免除されることになっております。すなわち、本年度においては、新基準単位数は診療実績8単位が免除されて、必要単位数は32単位となります。（50単位での提出予定の場合は10単位減の40単位）

## 7. 満65歳以上の専門医への対応（学会専門医のみ）

満65歳以上の専門医については、資格更新に際し、5年間の診療実績を審査します。2015年1月～2019年12月までの5年間分の年間診療実績記録は満65歳以上の専門医も含め全員ご提出いただくことになっております。

なお、満65歳以上の専門医は更新審査料が減免されますので、10,000円をお振り込みください。

## 8. 申請手続き方法

- a. 学会事務局より該当者へは11月中旬ごろ手引きおよび郵便振替用紙を送付いたしますが、お手元に届かない場合、また、昨年度（2019年1月）に学会の専門医更新を申請し、2019年4月からの専門医更新をしている方で、本年度に専門医機構更新を希望する方は下記の請求期間内に書面にて請求をしてください。  
なお、請求書面には『専門医資格更新手引請求』と朱書きしてください。

《請求期間》 2019年12月1日～12月15日

提出書類はすべて学会ホームページよりダウンロード可能です。（<http://www.jsprs.or.jp/specialist/shorui/index.html#contents2>）それらの様式に従ってご提出ください。

なお、会員マイページに専門医単位登録が可能ですが、現段階では備忘用の記録管理となります。本年度更新対象の先生方におかれましては、本機能を利用した更新申請はできませんので、ご了承ください。

\*講習の受講記録としての受講証は会員カードでの受講分はマイページ上よりダウンロードが可能です。

- b. 更新審査料30,000円（登録料10,000円を含む）：郵便振替口座へ振り込んでください（手引きに同封する郵便振替用紙をご使用ください）。また、審査料を納入したことが分かる証明書のコピーを同封してください。
- c. 書類提出期間

**2019年12月2日（月）～2020年1月15日（水）【消印有効】**

提出書類のコピー1部を必ず手元に保管してください。

書留またはそれに準じる方法（レターパック、宅配便等）で送付してください。

- d. 提出先

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル9階  
一般社団法人日本形成外科学会 専門医生涯教育委員会 宛

## 9. 専門医更新審査の時期と結果通知について

2020年1月下旬～2月初旬に実施。審査結果は、機構認定専門医においては、専門医生涯教育委員会および形成外科領域専門医委員会での審査報告をもって専門医機構が資格を認定、登録後、認定証を交付します。学会専門医は、理事長に審査結果を報告し、理事長の承認のもと、2020年3月31日までに学会より認定証を送付する予定です。

**注記**

なお、下記の場合は専門医生涯教育委員会で審査し、日本専門医機構承認のうえ資格を剥奪することができる。

- 1) 公序良俗に反する場合
- 2) 正当な理由なく資格更新を行わなかった場合

以上